

爭議團の活動は本来當然の対争たるべき工場を離れ、直接争議に關係なき各方面(住友各關係事業所並に住友事業關係首腦者の自邸等)に對する全國的闘争となり、所在に「デモ」「イヤガラセ」等を演出し、茲に今次の紛争は定寧ろ労働者の經濟的争議と謂はるより、労働組合の階級的社會的闘争と化せり即ち爭議團員一味約百數十名の者は或は寄贈米の運搬を名として、故らに市中を長蛇横行し、所謂「米引デモ」を敢行し(五月十七日)、或は名を労働者大會に藉りて、糾弾演說會を催し、内容空虚なる抗議文を議決し(五月十八日)、或は合資會社、小倉總理等(即ち住友本家等に晝夜反復執拗なるデモを敢行しつゝあり(自五月廿八日))猶組合員等は此種運動を大阪附近に於て續行するの事ならず、更に東京方面に於ても、故らに世上の耳目を聳たしむるの舉に出でん

とし、遂に五月廿七日、三輪壽壯、淺沼稻次郎、鈴木茂三郎等大衆黨員等八名、西園寺公邸に赴き、名を爭議解決方懇願に託し、以て彼等独自の宣傳を恣にせり

斯くの如く工場中心の争議は事實殆んど終熄し、爭議團の勢は更に伸ぶべくもなく、騷擾は只徒なる姿となりたるを以て、本事件の終末又近きにありとし、陰に陽に或は仲裁、或は調停を去厚するもの出づるに至りしが、會社に於ては所謂争議は既にその歸趨自ら明にして、然かも會社の態度は當初より定まりざる處あり、殊に所謂全勞働が、本来經濟紛争たるべき労働争議にしてその將を外れ、徒なる社會的闘争に狂奔するの今日、到底所謂「仲裁」「調停」等に耳を傾くべきに非ざる旨言明しつゝあり